



り入れた大規模な農地が発達し とくに 馬鈴薯（メークイン）の名産地として 著名である。

- 図幅南西部の日高累層群（ヤオロマップ川層）よりなる山地を除くとこの図幅地域の大部分を占めるのは鮮新～下部更新統の十勝累層群（長流枝内層 洪山層）を基盤とし 南から北方に向けてゆるく傾斜する標高100～260mを示す平坦な台地である。この台地は 9つの地形面に区分される。
- 台地を構成する更新世中期以降の堆積物は広い分布を示す古期扇状地礫層および新期扇状地礫層 沼ないし湿原堆積物からなるピラオトリ層 各種段丘面を形成する砂礫層 古土壌 ローム層 降下火砕堆積物などである。
- 古期扇状地礫層としては この地域のほぼ全域を埋めつくしたくされ礫を特徴とする光地園礫層が発達して

おり また 新期扇状地礫層には札内川一幕別台地間の構造谷を埋積した上札内I礫層がある。

5万分の1地質図幅の新刊

大 正
TAISHO

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著 者 小坂利幸（札幌西高校）松井 愈・紺谷吉弘（北海道大学）木村方一・野川 潔・春日井昭（北海道教育大学）近藤鍊三（帯広畜産大学）藤山広武（帯広三条高校）

発 行 工業技術院地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

- この図幅は 著者らも参加しておこなわれた十勝団体研究会の 17年間にわたる調査研究の成果を土台にして書かれたものである。
- 大正地域は 十勝平野のほぼ中央に位置し 帯広市の南に隣接する“火山灰地”として知られる開拓の歴史をもつ地域である。開けた平地には 今では 近代的農法をと

- この新旧扇状地礫層の堆積面である光地園面と上札内I面以外の地形面は 基本的には 光地園礫層の削斜面であって 多くの場所で砂礫層を全く欠除し 直接 降下火砕堆積物やローム層におおわれている。このような 各地形面にのる その地形面形成後 次の地形面形成の間に その面に堆積した堆積物を 面堆積物と呼んでいる。
- ウルム氷期の頃になると 乾燥寒冷化し 支筋降下軽石堆積物1や恵庭a降下軽石堆積物の二次堆積からなる内陸古砂丘が 台地上に広く発達した。また インボリューションや構造土などの周氷河現象も各所で観察される。
- この図幅では これまで表現が省略されたり 下位の砂礫層に一括して扱われがちであった更新世中～後期の堆積物を できるだけ地質図上に表現するため 地形面堆積物を明らかにして地質図に塗色している。これは この図幅の1つの新しい試みである。

地質ニュース	第302号	10月号
	定価 500円	実費
昭和54年10月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局 政府刊行物仕入部	
	東京都港区赤坂裏町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	